

ISO／IEC WG21 (IT Asset Management／IT資産管理)
WG21国際会議出席報告書

2022年7月15日

島田 (デロイトトーマツ)
報告者氏名 : 高橋快昇 (ITAMLAB)

1. 開催場所 : リモート

2. 開催期間 : 2022.6.13-16

3. 参加国数／出席者数 :

47 名 (11 カ国, 5 リエゾン) コンビナー, 幹事, 米 (7), 英 (5), スイス (1), インド (4), カナダ (2), フィンランド(2), ドイツ (2), オランダ(1), ベルギー(1), イタリア(1)、日本 (2), SAMAC, ITAMForum, ITAM.Org, SC27 + 17 名

4. 審議事項 :

4.1 WG21 コンビナー報告(Day1) :

- WG21 で開発中の規格及び SG の状況の概要が報告された。

規格 :

- ✓ ISO/IEC 19770-1 : 202x 第 4 版 (要求事項)
- ✓ ISO/IEC 19770-2 : 202x 第 3 版 (ソフトウェア識別タグ)
- ✓ ISO/IEC 19770-3 : 202x 第 2 版 (権利スキーマ)
- ✓ ISO/IEC 19770-4 : 202x 第 2 版 (資源利用測定)
- ✓ ISO/IEC 19770-5 : 202x 第 3 版 (概要及び用語)
- ✓ ISO/IEC 19770-6 : 202x 第 1 版 (ハードウェア識別タグ)
- ✓ ISO/IEC 19770-7 : 202x 技術レポート (タグオーケストレーション)
- ✓ ISO/IEC 19770-9 : 202x 第 1 版 (ITAM インベントリスキーマ)
- ✓ ISO/IEC 19770-10 : 202x 第 1 版技術レポート (ITAM 導入ガイダンス)
- ✓ ISO/IEC 19770-12 : 202x 第 1 版技術仕様 (オープンソース・仮想コンテナ)
- ✓ ISO/IEC 19770-13 : 202x 第 1 版技術仕様 (サステナビリティ)

スタディグループ :

- ✓ ITAM Charter & WG21 Strategy
- ✓ ITAM Implementation Guidance
- ✓ ITAM and Cybersecurity & Blockchain
- ✓ ITAM OpenSource & Virtual Containers
- ✓ ITAM and Sustainability
- ✓ ITAM and FinOps
- ISO が進めている標準の Online での開発スタイル Online Standards Development (OSD) の紹介, 標準規格の規則やメンバ・リエゾンなどの役割を記述している作業指針 1 部第 13 版の改版 (ガイド)

ンス的な 2 部は昨年改版) , プロジェクトエディターの IT ツール (<https://www.iso.org/drafting-standards.html>) のアップデートなどが報告された。

- スタディグループをより WG21 外に開かれたものにするための議論が行われた。-10 では WG21 外のメンバーをうまく活用している。これに倣い、他の SG も WG21 外に ToR (Term of Reference) を公開する。
- -1 の承認プロセスとして-11 があるが、認証スキーマについての紹介が 7 月のオンライン会議で紹介される。

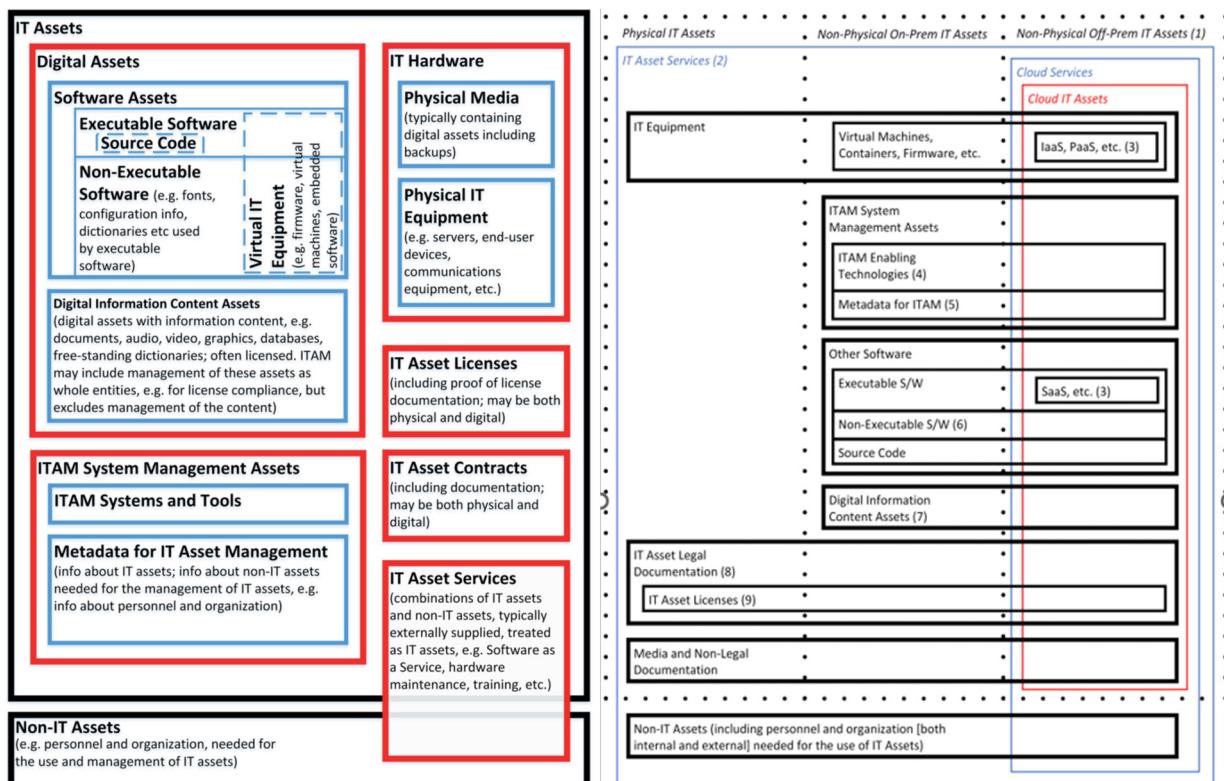
4.2 プロジェクト及びスタディグループ (SG) の状況

4.2.1 19770-1 第4版 ITAM 要求事項(Day 2)

- 未だ企画段階。(ISO 作業指針第 1 部, 付属書 SL の定義の制限, ISO/IEC 27001, ISO/IEC 55001, ISO/IEC 20000 との関係を評価すること, マネジメントシステム標準としての存在を正当化するために ISO/IEC 55001 を補完する位置づけにしてきたが, この方向を変えることができるかどうか検討していること。)
- エンハンス事項としては, コミュニケーション、認識と教育、経営陣への報告 (ROI など), 利害関係者の管理、他の機能とのコラボレーション (FinOps など)、継続的な成熟度, 15 のプロセス, 階層化アプローチなどが挙げられている。
- SC27, SC40、およびブランドコンプライアンスを 19770-1 第4版開発プロジェクトに招待することが WG21 で承認された。(22PLN05)
- 規格および WG21 委員会名を「Information Technology Asset Management System」から「Technology Asset Management System」に変更するというトピックを再検討する。(22PLN04)

4.2.2 19770-5 概要及び用語 第4版(Day1)

- -5 の CD ドキュメントの略完了したとの報告があった(プレゼン資料 : N2168)。
- CD ドキュメント (N2167) の図 1 について-1 のタイプ分類と異なっている点について議論となった。この図は、-



10 のガイドライン SG 内のメール投票で採用されるようになったものである。見直し後、NWIP+CD 投票に進む。

4.2.3 ISO ITAM Tagging 標準 (-2, -3, -4, -6) についての議論 (Day3)

- ISO 情報構造規格 (タグ) について Ben Strickland, Rory Canavan, and Steve O'Halloran らが主導する形式で議論が行われた。(プレゼン資料 : N2176)
- Ben Strickland は、現在の運用モデルでのタグの複雑さについて問題を提起した。タグ間で関係構築のための一貫性のないタグ要素がある点、一貫したリンクがあつても、それらはタグの制御および管理の側面が規格外となっている。これらの問題の解決策は、タグの複雑さを軽減することである。これを行う 1 つの方法は、他のタグへのリンクを削除するか、オプションにすること。タグ内のデータは不变/固有である必要があり、不变ではない状態 (所有権、場所など) を宣言するデータ要素と分けて利用することなどが提案された。
- Steve O'Halloran は、「タグが現実の世界で機能しないのはなぜですか？」というトピックについて説明した。彼の結論は、タグ標準は、既存のデータ検出や管理のモデルと比較して効果的でも価値があるとも言えない。誰も生成していないし、使っていないというものであった。— 2 のエディターである David Waltermire からは、— 2 はセキュリティ問題で特に政府系のビジネスでは重要な位置付けがなされており、Steve の意見は言いすぎだとコメントがあった。また、DMTF (Distributed Management Task Force) などの幅広い業界サポートを持つタグ付け標準が議論された。いずれにしても Steve は— 7 のエディターを行っており、どのように情報構造の規格を使っていくかという検討から出てきた意見は注視すべきである。私見であるが、タグ規格は殆どオプションであり、逆に使い方 (制御および管理の側面) を— 7 で示すべきだと思う。
- Rory Canavan は、現在の各タグ付け標準 (-2, -3, -4, -6) の SWOT 分析を紹介した。
- 議論の結論として、WG21 は、タグ関連の標準の開発と並行し、これらの戦術的および戦略的考慮事項を検討する (タグ開発の続行可否も含む) 議論を続行する。
- 情報構造 (タグ付け) 規格の検討のためフォローアップコールをスケジュールすることが決まった。
(22PLN14)

4.2.4 19770-6 第 1 版 ハードウェア識別タグ (Day3)

- 19770-6 の CD 投票コメントへの対応が説明された (プレゼン資料 : N2163) , カナダからのテクニカルコメントで 1 件だけリジェクトがあつたがそれ以外は採用された。この 1 件は、情報構造規格の先の議論とも関連することであり、継続して議論が必要。規格自身の開発は次の DIS 投票に進むことで合意した。コメントを反映した DIS ドキュメントのドラフト (N2164) で内容の説明があつた。特にサブ箇条 6.9 で静的要素と動的要素についての記述が追加されている。
- DIS 投票に進むことと 6.9 に記述が WG21 で承認された (22PLN02) 。

4.2.5 19770-9 第 1 版 IT Asset Inventory Specification (Day3)

- IT 資産インベントリ定義 19770-9 の概要説明があつた (プレゼン資料 : N2177) 。目標は、組織に「good-better-best」を提供する「参照ドキュメント」を作成することのようである。ボランティアの募集があつた。roel.decneut@lansweeper.com

4.2.6 19770-10 第 1 版 ガイドライン TR (Day2)

- 19770-10 の作業状況の概要説明(プレゼン資料 : N2171)。現在のワーキングドラフト (N2172) は WG21 で参照可能。配置や構造の問題だけでなく、作成者間の不一致を取り除くための編集を実施中。
- 予定頁数の 2 倍になり、19770-1 の頁数の 4 倍になる予定。規格が高価すぎる。ISO は 80 ページ以降

の価格に上限を設けており、19770-10 はそれを超える可能性が非常に高い。

- 当社の調査と議論では、このドキュメントの読者は経験豊富な ITAM 実践者を対象としていた。前提知識をまとめた定義が必要。ITAM 実践者のためのトレーニングのカリキュラムとすることもできる。
- ガイドライン SG の ToR を延長することが WG21 で承認された。（22PLN12）

4.2.7 ITAM & Sustainability SG(Day1)

- 活動状況の報告があった（プレゼン資料：N2170）。昨年 11 月に「ITAM & Sustainability」のホワイトペーパー（N2184）を公開した。ITAM 標準の Web サイト（<https://itamstandards.org/wp-content/uploads/2021/11/FINAL-WG21-White-Paper.pdf>）でも公開されているが、IT 資産管理者が組織内の IT サービスを持続可能なものにするために必要と思われる事象についてまとめている。
- 19770-10 の草案には寄稿。
- 持続可能性に関する市場調査。（調査内容は、たとえば、「あなたの会社は、ESG のパフォーマンスを報告していますか？」というもの）
- IT 資産の持続可能性に関する教育・啓発のためのウェビセミナー、ポッドキャスト。
- ITAM & Sustainability SG の ToR を延長することが WG21 で承認された。（22PLN13）

4.2.8 Cybersecurity & Block Chain SG (Day4)

- 活動状況の報告があった（プレゼン資料：N2175）。ホワイトペーパーの開発を開始している。このホワイトペーパーでは、ITAM コミュニティ向けの実践的なガイダンスと、ITAM 実践者向けのベストプラクティスを提供する。
- Nathan Opheim が新リーダとなることについて WG21 で承認された。

4.2.9 ITAM & Open Source Software SG(Day 4)

- 最新情報を更新した（プレゼン資料：N2174）。OSS のライセンス遵守の仕様を定義している OpenChain（<https://www.openchainproject.org/>）は、無料で、オープンソースで、コミュニティ主導であり、そのコミュニティへは簡単に参加できる。また、すべてのドキュメントは、GitHub を介して公開されており、ボランティアが複数の言語に翻訳している。（ISO の標準にもなっている。OpenChain:ISO/IEC 5230:2020 Information technology — OpenChain。SPDX: ISO/IEC 5962:2021 Information technology — SPDX® Specification V2.2.1, DIS ドキュメントには日本からもコメントしている。）
- オープンソース SG は、19770-10 ガイドライン SG で使用される特定のユースケースや、次の 19770-1 第 4 版でも関連する記述を提案するとともに ITAM における OSS の記事を検討する。
- OpenSource & Virtual Containers SG の ToR を拡張し、WG21 以外のメンバー（特に Linux foundation）に公開することが WG21 で承認された。（22PLN10）

4.2.10 ITAM & FinOps SG(Day1)

- FinOps Foundation（<https://www.finops.org/introduction/what-is-finops/>）の Rob により、ファウンデーションの概要が紹介された。ITAM 分野は、「FinOps & ITAM」SIG（Special Interest Group）が担当している。WG21 は、この SIG と一緒に「ITAM & FinOps」を研究していく、具体的に、すべてのオンライン会議を WG21 の ITAM & FinOps SG と FinOps Foundation の SIG とで共同開催

とする。ToR を WG21 以外のメンバーに公開する。（22PLN11）

- Linux Foundation を現在の SC22（言語他）でのリエゾンステータスと同じ、クラス A リエゾンとして SC7 に追加することを SC7 に要求することが承認された。（22PLN15）

4.2.11 ITAM & OTAM (Day 2) 新しい SG

- Operation Technology Asset Management (OTAM) の提案（プレゼン資料：N2159）。
(19770 ファミリの標準は OTAM のユースケースに適用できる。運用の技術は、「モノのインターネット」(IoT) のような管理で多くの問題を共有している。このトピックをさらに調査するために OT & IoT 研究グループを結成することが必要であるとの提案)
- 19770-10 のガイダンスへの影響が考えられるので、OTAM 附属書としてガイダンス SG に提供する。（22PLN06）
- Filip Lauwers がエディターとして ITAM OTAM SG を作成することが WG21 で承認された。研究会は、SC41(IoT)及びその他の関連する専門家グループへも開かれる。（22PLN03）

4.3 ITAM Forum & Certification Update(Day1) (N2170)

- ITAM フォーラムの C リエゾン報告があった。（プレゼン資料：N2170）ITAM フォーラムは ITAM のビジネス慣行を促進することを使命とする非営利団体で、現在、20 か国から 100 人の個人が参加しており、以下の分科会がある。
 - ITAM Optimization
 - ITAM Service Models
 - New Generation ITAMers
 - Public Sector ITAM
 - ITAM & Sustainability
- 2021 年度年次報告書を発行。メンバーは利用可能。（メンバー登録は無料です：<https://itamf.org>）
- ITAM リーダーシップサミットを主催。（8 か国、30 人が参加）ITAM フォーラムの 3 年間の戦略と、認証スキームを成功させる施策について検討している。2023 年に 10 の組織、2024 年にさらに 30 の組織、2025 年半ばまでに 60 の組織、合計 100 の組織が 2025 年半ばまでに認定されることを目標。
- 27001 は規制上の理由でビジネスを実施するために取得されているが、19770 はそうなっていない。市場で競争力を発揮するには、19770 が 27001 やその他の標準に役立つことを示す必要がある。
- チームを運営するスキル、高度な ITAM 専門家の教育を計画している。（経営のトップと話し、利害関係者と関わり、データを提示し、交渉に影響を与え、データ指向のビジネス価値を指摘できるための「パワースキル」を備えたプロフェッショナルを目指す教育）

4.4 SC7 & WG21 Resolutions (Day4)

WG21 でのレゾリューションとして以下が追加された。（N2186）

ROW	REF	RESOLUTION
682	22PLN01	It was resolved to have WG21 review the latest draft of 19770-5 Ed. 3 and provide feedback by July 1st, and to proceed to NWIP+CD ballot after
683	22PLN02	It was resolved to accept the Disposition of Comments and revised draft proposed by the editors following the CD ballot results of 19770-6 Edition 1, and to move forward to DIS ballot for this project

ROW	REF	RESOLUTION
684	22PLN03	It was resolved to create a Study Group for ITAM in Operational Technology (OT), to be called OTAM, lead by Filip Lauwereys. Participation in the study group will be open to SC41 and other related expert groups. (N2182)
685	22PLN04	It was resolved to revisit the topic of whether the 19770-1 Ed. 4 standard and WG 21 Committee name should be changed from "Information Technology Asset Management system" to "Technology Asset Management System"
686	22PLN05	It was resolved to invite SC27, SC40, and Brand Compliance to participate in the 19770-1 Ed. 4 development process.
687	22PLN06	It was resolved for Filip Lauwereys to provide an OTAM Annex to the 19770-10 Study Group by July 1st.
688	22PLN07	WG21 Calls for Volunteers to participate in the open Study Groups and Projects. Please contact the Project leads or the Secretary or Convenor to be included in future working sessions.
689	22PLN08	It was resolved to extend the ToR for the "WG21 Charter and Business Strategy" SG (N2185)
690	22PLN09	It was resolved to extend the ToR for the "Security & Blockchain" SG, to open it to members outside of WG21, and to replace Nathan Opheim with Jiri Kocab leading the Study Group. (N2179)
691	22PLN10	It was resolved to extend the ToR for the "Open Source & Virtual Containers" SG and to open it to members outside of WG21(N2181)
692	22PLN11	It was resolved to extend the ToR for the "FinOps" SG and to open it to members outside of WG21. Specifically, to hold all future calls jointly with the FinOps Foundation Special Interest Group for ITAM & FinOps (N2180)
693	22PLN12	It was resolved to extend the ToR for the "ITAM Implementation Guidance" SG(N2183)
694	22PLN13	It was resolved to extend the ToR for the "Sustainability" SG (N2184)
695	22PLN14	It was resolved to schedule a follow-up call to decide the next practical steps for the ISO ITAM information structure (tagging) standards
696	22PLN15	It was resolved to request the Linux Foundation be added as a Class A Liaison to SC7 similar to their current Liaison status with SC22
697	22SC72627	It was resolved to remove Jason Keogh and Nathan Opheim as SC7 liaisons to SC27
698	22SC72627	It was resolved to remove Nathan Opheim as a SC7 liaison to TC307
699	22SC72627	It was resolved to replace Matt Marnell as a SC7 liaison to SC41 with Filip Lauwereys
700	22SC72627	It was resolved to add Ron Brill as an SC7 liaison to SC38
701	22SC72627	It was resolved to add Ron Brill as an SC7 liaison to TC251
702	22SC72627	It was resolved to add Ron Brill as an SC7 liaison to SC40

5. 次回会議

- 14-17 Nov 2022, Virtual
- 39 th SC 7 Plenary
 - Opening Plenary: 05 Dec 2022 , Virtual
 - Closing Plenary: 09 Dec 2022 , Virtual
- 40 th Plenary
 - 4-9 June 2023 Okayama, Japan (Confirmed) Hybrid/F2F with remote participation

以上